



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

桜井女学校幼稚保育科卒業生吉田鉞の保育思想とその実践：室町幼稚園の保育カリキュラムに着目して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 優美, 橋本, 美保 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/108075">http://hdl.handle.net/2309/108075</a>

# 桜井女学校幼稚保育科卒業生吉田鉞の保育思想とその実践

—— 室町幼稚園の保育カリキュラムに着目して ——

田 中 優 美\*・橋 本 美 保\*\*

教育学分野

(2010年9月27日受理)

## 1. はじめに

わが国最初の保育者養成は1879(明治12)年に官立の東京女子師範学校に保姆練習科が設置されたことにより開始された。しかし、これは第1回の卒業生を出しただけで廃止となり、同校本科に幼稚保育術と幼稚園実地保育という科目が組み込まれた。その後は小学校教員養成に付随して保育者養成が行われた。また、官立学校における保育者養成を基盤にしつつ、各幼稚園での見習い制や東京府教育会による速成養成がなされた。

キリスト教系では桜井女学校幼稚保育科<sup>1</sup>が最初の保育者養成機関であった。これは米国長老派教会の宣教師であるエリザベス・パットン・ミリケン(Elizabeth Patton Milliken, 1860-1951)によって1884年に始められ、1898年に廃止されるまでに、少なくとも43名の卒業生を輩出し、私立における保育者養成の先駆となった。

戦前の保育者養成においては、官立に対し、キリスト教系保育者養成機関の方が優れた養成を行ってきたといわれながら<sup>2</sup>、その存在は傍流に位置づけられてきた。それは、保育者養成の内容や養成された保育者の資質能力、また、その後の成長に対する実証的研究がほとんどないためである。

そこで、本稿では、草創期におけるキリスト教系保育者養成機関が養成した保育者の思想や実践を明らかにするため、桜井女学校幼稚保育科卒業生である吉田(春日<sup>エツ</sup>)鉞に注目する。

幼稚保育科卒業生の中で、とりわけ吉田は多くのキ

リスト教系幼稚園に関わっており、幼稚園教育のパイオニアとして知られている。彼女は『日本幼児保育史』において、明治時代の幼稚園設立に貢献した婦人として「春日鉞のようなクリスチャンの保姆等の努力がめだっている」<sup>3</sup>と評価されている。また、『日本基督教幼稚園史』では「最初の基督教幼稚園保姆」として取り上げられ<sup>4</sup>、『キリスト教保育に捧げた人々』<sup>5</sup>にも紹介されている。これらの先行研究では、彼女が多く幼稚園を設立し、主任保姆として活躍したと指摘されてきたが、彼女の保育実践の内容や特質については具体的に検討されていない。

本研究では、まず吉田の学習歴や職歴を概観し、彼女が受けた保育者養成と、彼女が行なった実践や保育者養成の内容についてできる限り整理し、紹介したい。また、従来は、英和幼稚園における彼女の最初の実践のみが注目されてきたが、本論文では室町幼稚園における実践も対象とする。主として、今回新たに発見された室町幼稚園の保育カリキュラムの分析を通して、彼女の保育思想と実践の特質について考察したい。

なお、本稿の作成にあたり、調査は田中・橋本の二人が行い、論文の執筆は田中が担当した。

## 2. 吉田鉞の学習歴と職歴

従来、吉田の履歴については『日本基督教幼稚園史』<sup>6</sup>や『北陸五十年史』<sup>7</sup>にある彼女の回想に基づいて紹介されてきたが、今回筆者は吉田の履歴書<sup>8</sup>を発見したため、これに拠って吉田の経歴等を正確に示すことを試みたい。

\* 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科  
\*\* 東京学芸大学(184-8501 小金井市貫井北町4-1-1)

## 2. 1 幼稚保育科入学以前の学習歴と入学経緯

吉田は1865（慶応元）年6月に現在の愛知県名古屋市中で生まれた。彼女は1877年3月に11歳で女範学校（後の愛知県立女学校）に入学した。また吉田幾次郎に就いて算術を、鈴木鎌蔵に就いて漢学を学び始めた。1879年7月には14歳で愛知県師範学校女学部と私立名古屋女礼学校に入学した。1881年7月に私立名古屋女礼学校を、1882年3月に愛知県師範学校女学部の全科を卒業し、1883年12月には吉田幾次郎の算術を修業した。また、1885年8月に鈴木鎌蔵の漢学を修業した。

1884年2月に中等科教員の免許状を得て、愛知県名古屋区公立幅下小学校七等訓導に任じられた。翌年の1月には同校六等訓導に任じられたが、1885年9月に小学校の訓導職を辞した。

彼女の業績については、1878年11月の巡幸の際に、学業に励むようにと天皇から金50銭を与えられたことや、1882年3月に学力優等のため愛知県から家事経済学の一部に対して賞典を受けたことが履歴書に記されている<sup>9</sup>。吉田自身が「明治十年名古屋の（県立）女範学校を卒業して十何歳で早くも小学校教員の免状を受けました」<sup>10</sup>と述べているように、彼女が特に学業に秀でた人物であったことが窺える。

幼稚保育科へ入学する経緯について、吉田は以下のように回想している。

（女範学校の同級生であり：筆者注）卒業後横浜の聖經女学校に奉職した稲垣すゑ（海野）姉もその一人でした。処がその稲垣さんの許に一人の歳若い宣教師が尋ねて来られ、北陸に幼稚園を建てたいのだが誰か手伝ってくれる人はなかるうかと相談されたのがミス・ポートルでありました。稲垣さんは一寸思ひ当る人もいないので『先生一所に祈つてみませう』と二人で祈り始められました。すると胸に浮んだ顔が私であつたと云ふので早速ポートル先生に話して賛成を得るなり手紙を書いて寄こしました<sup>11</sup>。

このように吉田は、稲垣によってポートル（Francina E. Porter）<sup>12</sup>に紹介された。

ポートルが「殊に北陸に行く前に東京へ桜井女学校（今の女子学院）のミス・メリケン先生に就て幼稚園の保姆科を修業して来て貰ひたい」<sup>13</sup>と吉田に依頼したため、この手紙を受けた吉田は「その当時の私は何とかして大阪なり東京に出て見たいと考へて居た折とて心躍る思ひで承諾を与へて」<sup>14</sup>上京することになっ

た。

ポートルは桜井女学校のマリア・ツルー（Maria T. True）<sup>15</sup>から「設立するなら完全な幼稚園を」<sup>16</sup>と助言されたこともあって、当時としては保姆として働く上で十分な学歴を有した吉田を、わざわざ自費で東京の桜井女学校に入学させて幼稚園の専門的な知識・技能を取得させようとしたと考えられる。

吉田は当初、上京したいという思いからポートルの依頼を引き受けたが、「ミス・ポートルの曰く、設立するなら完全な幼稚園をとツルー先生が申されたとして、一生懸命なりし私は昔の娘にて働きたくたゞ心命かけてもと云ふ一念」<sup>17</sup>で幼稚園教育に関わったという。

## 2. 2 保姆としての基盤の形成

桜井女学校は1876年に桜井ちかによって創設された。1881年からは経営が米国長老派教会婦人伝道局に移り、矢嶋楯子を校長とし、ツルーによって事業が拡大された。1889年には、新栄女学校と合併し、女子学院となる。桜井女学校は幼稚園、尋常・高等小学校、貧学校、看護師養成所等の多くの附属機関を有し、全国でも生徒規模が最大の女学校であった。

桜井女学校における保姆養成は、1884年に米国長老派教会の宣教師であるミリケンが来日したのを契機に開始された。彼女によって同校にアメリカの保姆養成の理論や制度がもたらされたと考えられる。桜井女学校には女子教育の一環として保育学や保育法という科目が設けられていたが、それとは別に幼稚保育科において専門的な保姆養成が行われていた。幼稚保育科では、キリスト教思想を基にしたフレーベル主義の理論と実践がセットになった養成が行なわれており、保育方法のみならず、保育理論も重視されていた<sup>18</sup>。このように、幼稚保育科での保姆養成は、東京女子師範学校や、各園での見習制の保姆養成とは異なる特質を有するものであった。

吉田は「上京致しましたのが明治十八年の春でありました」<sup>19</sup>と述懐しており、彼女の履歴書には「一同十八年九月東京麹町区上二番丁女子学院内幼稚園保姆科及英学科修業、一同十九年七月該保姆科卒業」<sup>20</sup>とあるので、1885年の春から半年ほどで幼稚保育科と英学科を修業し、幼稚保育科においては1886年7月まで勉学を続けて卒業したとみられる。

また、吉田は「桜井女学校に入って矢島楯子先生の御指導を受け、麹町教会で奥野昌綱先生から洗礼を受けた時に、初めて心の底から信仰と云ふものがハッキリわかりました」<sup>21</sup>と述べているように、桜井女学校

時代に洗礼を受け、キリスト者としてのアイデンティティーを確立させていた。吉田はこの時期に、保育実践を展開していく上での基盤を獲得したと考えられる。

### 2. 3 英和幼稚園の設立・実践と金沢女学校への入学

幼稚保育科を卒業した吉田は「両親から今さら北陸の田舎になんか行かぬがよいと云つて寄こしたり、女範学校からも名古屋に戻つて来て母校に教鞭を執つては如何かとしきりにすゝめて参りましたが、私としては一たんミス・ポートルにお約束したのでありますからと申して一切の義理や人情を振切つて金沢に赴任する事に決心致しました」<sup>22</sup>と述べているように、約束通り金沢へ赴任することを決断した。ポートルは金沢から吉田を迎えに来て、1886年8月に東京を立った。ポートルとともにネラー (Laura Mccord Naylor) を迎えに来た金沢女学校のヘッセル (Mary Katherina Hesser) も一緒に、4人連れで金沢へ向かった。道中では大阪のハーワの所に寄り、蔡倫社で幼稚園のための買い物をした。彼女らは交通の不便さやコレラの検査を受けるなど、苦労を重ねて金沢に到着した後<sup>23</sup>、吉田はすぐに幼稚園の設立に着手した。その手続きについて吉田は以下のように述懐している。

金沢に着きまして第一の仕事は幼稚園設立の手続をする事でありましたが、一体何処にどんな形式で届ければよろしいかなかなか〜わからぬものです。然し幸な事に桜井女学校在学中矢島校長の御命令で小学校の御手伝をして居たのでその頃の生徒に…(中略)…文部次官折田氏の令息が居られた関係から、当地への出発前に一度折田文部次官に会つて幼稚園設立をするには如何したらよいか尋ねて置いた事が、今役に立つ時が来ました。金沢に着くなり早速県庁に赴き学務課に出頭して…(中略)…都合良よく設立届を出す事ができたのでした<sup>24</sup>。

残念ながら、この設立届は現存していない。金沢で設立に先立つ重要な仕事を終えた吉田は、1886年10月に英和幼稚園と英和小学校を設立した。

英和幼稚園で園長を務めた吉田は、「ミス・ポートルは幼稚園に就ての経験も見識もあまり無い方ですから、一切を私にまかされました」<sup>25</sup>と述べており、ここで吉田は桜井女学校で学んだことを実践に移していったと考えられる。

英和幼稚園における保育実践はキリスト教色が強

く、聖書の話がなされていた。また、すでに明治前期からアメリカで使用されているリズムカルなテンポの唱歌が英語のまま用いられ、「豆腐man」や「鉄道ごっこ」という身近なものを題材にした創作遊戯が導入されていた。さらに、恩物を直接海外から輸入し、形式主義的な恩物教育ではなく、子どもに自由に恩物を使用させていた<sup>26</sup>。

『日本幼稚園史』には「明治十九年十月石川県に創立された英和幼稚園は、北米人の経営になるもので、ミッションの幼稚園として当時唯一の異色ある幼稚園であつたのであらう」<sup>27</sup>とあり、「創立当初英和幼稚園と称す。北米人ミスポートル園長に就任。フレーベル主義を以て始められ、又基督教の幼稚園としては当時の珍しい存在であつた」<sup>28</sup>と紹介されているが、これは英和幼稚園が以上のような特徴を有していたためであらう。

また、吉田の履歴書には「一同十九年十月石川県金沢女学校英学科エ入学」<sup>29</sup>とあり、1886年10月に金沢女学校英学科へ入学していたことが判明した。さらに「一同廿一年二月ヨリ同廿四年六月迄米国人幼稚園専門教師ヘレン、エス、ラブランド氏ニ就キ教育学并ニ音楽修業」<sup>30</sup>とあり、吉田が1888年2月から1891年6月まで米国人幼稚園専門教師ヘレン・エス・ラブランドのもとで教育学と音楽を修業していたことが明らかとなった。「(ポートルの：筆者注) 賜暇帰省中後任として来られたミス・ラブレンはなかなかの専門家」<sup>31</sup>と吉田は述べている。ラブランドについての詳細は不明であるが、金沢女学校に派遣された教育宣教師であつたと考えられる。

しかし、吉田は脚気となり、親が心配して金沢まで迎えに来たため、1891年7月に辞職した<sup>32</sup>。吉田が金沢において幼稚園教育に従事したのは約5年間であつた。

### 2. 4 キリスト教系幼稚園創設に関する諸活動

吉田はしばらく休養していたが、名古屋市内に幼稚園を開園したばかりのミス・ケースに頼まれて、彼女の幼稚園を手伝うようになった<sup>33</sup>。

その後、「横浜のミス・サイモンスから幼稚園を建てたいから是非手伝つてくれとの依頼があり、横浜なれば遠方でもなし、気候も寒くないからとて親の許しを得て再び名古屋を離れました。それは明治廿六年一月の事でした」<sup>34</sup>とあるように、吉田は1893年1月から神奈川幼稚園の園長となり<sup>35</sup>、その2か月後には神奈川県知事から幼稚園保姆免許状を受けた<sup>36</sup>。この時のことを吉田は、「私は初の一年餘しか御手伝ひ致し

ませんでした。私の後任には橋本花さん、次に二宮わかさんが責任を持たれました<sup>37</sup>と述懐しており、幼稚園の運営を後任の保姆に託し、自らはポートルが設立する幼稚園を助けるため、京都へ渡った。吉田は京都に移った経緯について、「その頃京都に移ったミス・ポートルから又自分と一緒に働かないかと申して来ました。私は只もう幼稚園の為とのみ考えて働いて来たのですから、神奈川を振切るには忍びない思がしましたが、京都に新しく幼稚園を建てるので是非自分に来て欲しいと云ふ恩師の言葉でもありましたので、これも神様の御使命と思ひ再びポートル先生の許に参り、幼稚園設立の準備にかゝりました<sup>38</sup>と説明している。

吉田が京都に移ったのは1893年10月であった。1893年10月25日に西陣幼稚園（現在の栄光幼稚園）が開設されると<sup>39</sup>、吉田は園長に就任した<sup>40</sup>。『京私幼50年史』には「京都にあっては、明治26年初めてのキリスト教主義幼稚園として、上京区松屋町に西陣幼稚園は生まれ<sup>41</sup>と記されている。この西陣幼稚園については、『日本基督教幼稚園史』に以下のように紹介されている。

京都西陣幼稚園 明治廿六年十月廿五日創立  
保守的な習慣を墨守すると云つても過言でない京都の町に基督教の旗印を高くかざして四十八年も前に谷口礼子氏によつて創立され、初代園長はミス・ポートルでありました。創立のためミス・ポートルを助けて実際の仕事をしたのは春日（吉田）えつ姉でありました。その当時の苦心は想像も及ばぬ程で、保育料は殆どとらず清潔なエプロン手技材料等を園から与えて居たと云ふ事です。創業園児数約千二百名<sup>42</sup>。

吉田は西陣幼稚園を手伝った後、同じ京都において1896年1月29日に室町幼稚園を創設した。同園については次章で詳細に検討する。

## 2. 5 晩年の保姆養成に関する活動

吉田は1904年1月に宮城の師範学校内に保姆養成所を設置した。以下に『婦人と子ども』に掲載されたこの保姆養成所に関する二つの記事を引用する。

### ○保姆養成所

在仙台の春日えつ、立花せん二氏の發起にて同地師範学校内に保姆養成所を設置し、幼稚園保姆たらんとする者及一般婦女に育児、保育の方法を知

らしめんと目的にて、本年一月より開所せしが、現在生徒は二十七名にして、内十七名は保姆の資格を得て、来る七月卒業の上、それへ各地へ赴任する事となるべしと、目下適良保姆欠乏の際に当り、此事あるはまことに喜ぶべきことなり因に同所修業年限は六ヶ月、生徒は高等小学校卒業の者より取り、学科は教育、保育、育児、恩物取扱方、手芸、唱歌、遊戯なり<sup>43</sup>。

### 宮城県保姆養成所

同県師範学校内に開きたる同所第一回卒業生の実地保育は、其児童二百名に及び非常の好成績にて先月二十二日終了せりといふ<sup>44</sup>。

春日（吉田）えつと立花せんは宮城県師範学校内に保姆養成所を設置した。その対象者は保姆として働くことを希望する者に加え、一般の女性も含まれており、入学資格は高等小学校卒業であった。同養成所には、育児と保育の方法を教えることを目的として、修業年限6か月間で、教育、保育、育児、恩物取扱方、手芸、唱歌、遊戯の7学科と実地保育が設けられていた。

6か月間の養成は、公立の保姆養成機関としては一般的なものであったが、キリスト教系保姆養成機関における2年間の養成とは格段の差があった。しかし、「目下適良保姆欠乏の際に当り、此事あるはまことに喜ぶべきことなり」とあるように、吉田たちはキリスト教系の幼稚園や保姆養成だけではなく、一般のそれにも貢献したといえる。

吉田はその後再び上京し、1924年から1939年まで川村女学院（現：川村学園）で「礼法と手芸」という科目を教え、川村女学院退職後、1942年7月14日に他界した<sup>45</sup>。

## 3. 室町幼稚園の保育カリキュラムの特質

室町幼稚園に関しては、これまで『京私幼50年史』に「明治29年に室町幼稚園<sup>46</sup>、『日本基督教幼稚園史』に「廿七年三月に室町幼稚園が開園<sup>47</sup>という記述があり、『日本幼児保育史』に1894（明治27）年3月にミス・ポートルによって設立された<sup>48</sup>という情報だけが紹介されてきた。今回筆者は吉田によって1896年1月29日に提出された室町幼稚園の「私立幼稚園設置伺<sup>49</sup>（以後設置伺とする）を発見した。

設置伺によると、室町幼稚園は1896年1月29日に、京都市上京区室町通丸田町上ル大門町二百七十番地ノ一に設立された。設置の目的には「本園ハ学齡未滿ノ

児童ヲシテ身体精神ノ健康ヲ保全シ天賦ノ才美ヲ養成シ善良ノ言行ヲ習熟セシメ学齡ニ至リ各智徳体ノ三育ヲ修ムルノ素ヲ養フヲ目的トス<sup>50</sup> とある。同園は男女満3年以上満6年以下の幼児を保育対象としていた。保育料は一カ月20銭であったが、「但シー戸ヨリ二人以上入園セシムルトキハ第一人ハ全額第二人ヨリ金拾五銭ノ保育料ヲ納ムベシ<sup>51</sup>」とあり、二人目からは15銭を納めるという規則であった。保育時間は「午前九時ヨリ午後第一時半マデトス但シ土曜日ハ午前十一時迄トス<sup>52</sup>」と定められていた。定員は40名で、保母は2名であった。設置伺に添付された保母の履歴書によると、吉田に加え、岩崎エタが保母として着任していたことが確認される。岩崎は1886年に桜井女学校幼稚保育科を卒業し、その後は桜井女学校附属幼稚園に勤務した人物である。よって同園は桜井女学校幼稚保育科の影響を強く受けていたと考えられる。

本章では、同園の設置伺から、恩物とその参考図書として使用された『キンダーガーデンガイド』における恩物教育の記述の特徴について考察し、実物示教という室町幼稚園独自の保育科目に着目することで、その保育カリキュラムの特質に迫りたい。

### 3. 1 恩物中心保育

1884年に全面改正された東京女子師範学校附属幼稚園規則は各地の幼稚園設立の基準となった。それ以降、これまでの方向性とは異なる改正が1890年、1891年、1893年の3回に渡り行われ、その後1899年の「幼稚園保育及設備規程」制定までは、1893年の幼稚園規則が各地の幼稚園の基準となった。

創立当初から何度も改正が重ねられてきた東京女子師範学校附属幼稚園の保育科目は、1884年の改正で会集、修身ノ話、庶物ノ話、木ノ積立テ、板排へ、箸排へ、鑢排へ、豆細工、珠繫キ、紙織リ、紙摺ミ、紙刺シ、縫取り、紙剪リ、画キ方、数へ方、読ミ方、書キ方、唱歌、遊嬉の20科目となった。その後1893年の改正で説話、行儀、手技、唱歌、遊嬉の5科目となった。従来は恩物の種類ごとに一保育科目としていたために、科目が多数設けられていたが、1893年の改正では恩物を手技として一括化したため、保育科目数は激減した。その後、1899年には「幼稚園保育及設備規程」において遊戯・唱歌・談話・手技の保育四項目が定められた<sup>53</sup>。

1893年12月に全国50園に対して女子高等師範学校が行った調査「公私立幼稚園保育課目取調表<sup>54</sup>」によると、すべての幼稚園で一つ一つ恩物を一科目として扱っていたことが確認される。しかし、1894年に設立

された内藤新宿町立華園尋常・高等小学校附属幼稚園では会話・行儀・遊戯・唱歌・手技の5科目<sup>55</sup>、1896年に設立された岡山県の倉敷尋常小学校附属幼稚園でも説話・行儀・手技・唱歌・遊戯の5科目<sup>56</sup>を採用している。したがって、恩物の一括化は必ずしも「幼稚園保育及設備規程」以降のことではなく、手技の定着の様子はまちまちであったとみられる。

ここで1896年に提出された室町幼稚園の保育科目に注目してみよう。表1は筆者が作成した室町幼稚園の保育カリキュラムである。これをみると、保育科目として会集、修身ノ話、庶物ノ話、六球ノ遊ヒ、三体法、木ノ積立、板排へ、連板、箸排へ、鑢排へ、豆細工、土細工、球繫キ、糸、紙織リ、紙摺ミ、紙刺シ、縫取り、紙剪リ、組紙、画キ方、実物示教、唱歌、遊嬉の23科目が挙げられている。そのうち恩物に関するものが18科目あり、全19時間50分中、一の組で8時間10分、二・三の組で8時間50分が恩物の時間として割かれている。

これは単に恩物の取り扱い方の移行期であったためであろうか。『幼稚園教育百年史』では、恩物が一括化されたのは、幾つかのキリスト教系の幼稚園を除く多くの幼稚園では、フレーベルが本来恩物に込めた意味を理解することなく、それを単に幼児の感覚器官を練るための道具としてしか考えていなかったためであると指摘されている<sup>57</sup>。また、キリスト教系幼稚園では、大正期に入っても恩物中心保育が継続されている<sup>58</sup>。これらのことから、一般的には恩物離れが進んでいる中で、吉田が設立した室町幼稚園においてはフレーベルの恩物をあえて重視していた可能性が高いと考えられる。

### 3. 2 『キンダーガーデンガイド』における恩物教育

#### 3. 2. 1 『キンダーガーデンガイド』の存在意義

設立伺の「保育用図書器械」を見ると、吉田が参考にしていただいた図書がわかる。表2は第一恩物である「六球ノ遊ヒ」を行なう上での参考図書と使用した恩物である。以下「三体法」から「画キ方」まで、すべての恩物の参考図書として一貫して『キンダーガーデンガイド』が用いられていた。

そこで、室町幼稚園における恩物教育のために参考とされた「ジャン、クロース氏、モラヤ・クロースベルチ氏著『キンダーガーデンガイド』スチーゴル会社米国ニューヨーク、1877<sup>60</sup>」という図書に着目しよう。

同書の著者であるジョン・クラウス (John Kraus) はフレーベルの友人、また協力者であった人物で、妻のモルヤ・クラウス・ベルテ (Kraus-Boelte, M) と共

表1 室町幼稚園の保育カリキュラム(1896年)

	毎週時間	一ノ組	毎週時間	二ノ組	毎週時間	三ノ組
唱歌	2.00	簡易ナル単音唱歌	2.00	同上	2.00	同上
談話	1.00 1.00	修身ノ話 庶物ノ話	1.00 1.00	同上	1.20 .40	同上
会集	3.00		3.00		3.00	
六球ノ遊ヒ	1.00		.30			
三体法	.40		.30			
木ノ積立	1.30	第三第四	1.00	第五第六	1.00	同上
板排へ	.30	方形、両等辺三角形	.30	正三角形、不等辺三角形	.30	同上
連板	.30					
箸排へ	.30		.30		.30	
鑿排へ	.30		.30		.30	
豆細工	.30		.30		.30	
土細工			.30		.30	
球繫キ	1.00		.20		.20	
糸	.30		.30		.30	
紙織リ	.30		.30		.30	
紙摺ミ	.30		.30		.30	
紙刺シ			.30		.30	
縫取り	.20		.30		1.00	
紙剪リ			.30		.30	
組紙			.30		.30	
画キ方	.20		.30		1.00	
実物示教	.40		.40		.40	
遊嬉	3.00		3.00		3.00	
通計	19.50		19.50		19.50	

にアメリカの幼稚園教育の指導者であった。「スチーグル社」とはシュタイガー社 (E. Steiger & Co.) のことで、アメリカの幼稚園関係の書籍や遊具類の出版・販売を行っていた業者である。

アメリカでは『キンダーガーデンガイド』が出版されるまで、恩物は1869年に出版されたウィーブ (Wiebe, E.) の『子ども時代の楽園』において、遊具と作業を合わせて20種にまとめて紹介されていた。また、本書をもとにシュタイガー社は20種類の遊具を製造し、二十恩物はアメリカ国内に広まっていた<sup>61</sup>。しかし『子ども時代の楽園』は恩物の簡易な説明にとどまっていたため、クラウス夫妻は『キンダーガーデンガイド』を著し、恩物の詳細な解説を行なって、遊具遊び13種、作業11種の合計24種の分類を紹介した<sup>62</sup>。以後シュタイガー社はクラウス夫妻の指導のもとに24種類の恩物の製造に切り替えていった<sup>63</sup>。

しかし、日本ではウィーブの書とシュタイガー社製造の二十恩物の影響を強く受けた関信三によって、恩

物は『幼稚園法二十遊嬉』<sup>64</sup>の中で「二十恩物」として体系的に示された。この書は難解な恩物理論の説明は避け、絵入りで分かりやすい説明がされているため一般に普及し、二十恩物が定番となり、恩物教育が形式化する要因となった。

関は『キンダーガーデンガイド』を「幼稚園創立法」<sup>65</sup>の中で参考図書として挙げているが、この書は英語で書かれているため、日本では『幼稚園法二十遊嬉』ほど一般に普及していなかったと考えられる。室町幼稚園ではこのような経緯のある『キンダーガーデンガイド』を参考図書としていたため、一般的な幼稚園とは異なった恩物教育を行っていたと考えられる。

表2 六球ノ遊ヒ

第一恩物	一箱		フローベル氏創製	佐藤正三
キンダーガーデンガイド	一冊	西暦千八百七十七年	ジャン、クロース氏 モラヤ、クロースベルチ氏 著	スチーゴル会社 米国ニューヨーク

### 3. 2. 2 『キンダーガーデンガイド』の記述の特徴

設置伺の「保育ノ要畧」において第一恩物である「六球ノ遊ヒ」は、「六球ノ遊ヒハ円形ハ世界地球ニ象リ幼児教育ノ最初玩器ニシテ六色ノ球ハ正間色ノ分チヲ教ヘ並ニ一ヨリ六マデノ数ノ増減ヲ教ユ」と説明されている。表1によると、その使用時間は、一の組で1週間に30分、二の組で1時間であった。ここでは第一恩物を例として、『キンダーガーデンガイド』における恩物教育の記述の特徴について分析していこう。

『キンダーガーデンガイド』は、全2巻あり、第1巻は「The First Gift」から「The Thirteenth Gift」までの13種の遊具遊びについて、第2巻は「The First Occupation」から「The Eleventh Occupation」の作業について、図を多用した詳細な解説がなされている。「The First Gift」には「The Ball」という副題がつけられており、以下の8つの質問<sup>66</sup>とまとめにより構成されている。

- 1 What is the First Gift?
- 2 Why has Froebel used the ball as the first of his means of occupation?
- 3 What elements for intuition does the ball represent?
- 4 What is taught by the ball in regard to form?
- 5 What does the ball show in regard to color?
- 6 What kinds of motions can be illustrated?
- 7 What kinds of bodily exercise are produced by the ball games?
- 8 To what extent does the ball belong to the kindergarten as a part of its teaching?

まとめ

1では、第一恩物であるボールの説明がなされ、2では、なぜボールが第一恩物として採用されているかについて説明されている。3ではボールは形、色、動きという直感を表すものとされており、4では形について、5では色について、6では動きについて示されている。7では腕の運動能力の強化の意義があることにも触れている。8では、「幼稚園教育の一部としてこの球体は幼稚園にどれくらい関係するか」<sup>67</sup>と問い、「これらの遊びは、3歳までの乳児にナーサリーにおい

て行われるものであるが、これらの遊びを学んでいない幼稚園児にもくり返される」<sup>68</sup>と答えている。他の幼稚園ではあまり使用されていない第一恩物を室町幼稚園で用いていたのは、このような影響によると考えられる。

8の問いに続いて、具体的な53個の操作法が挙げられていく。しかし、それらは単なる操作法の羅列ではなく、所々に全体的な説明、子どもの性質や本能的行動と第一恩物の関連、フレーベルの第一恩物に込めた意図、母や保姆がとるべき行動、子どもに得させたい能力等について言及され、子どもの発達段階も考慮されている。全体的な傾向としては、操作法は形式主義的ではなく、柔軟性があることを指摘できる。例えば、「フレーベルの恩物教育には言葉や曲が付けられているが、それには規則はない。それはそれぞれの母や保姆には彼女らの子どもたちに対する独自の言い回しがあるからである」<sup>69</sup>という記述がある。また、「母や保姆の創意は、ここに示されている以上の遊びを提案する」<sup>70</sup>とあるように、母や保姆が恩物を工夫して用いるよう指示されている。

以上のように、室町幼稚園ではフレーベルの思想を重視したクラウス夫妻の『キンダーガーデンガイド』を参考図書とした恩物中心保育を行なったことから、『幼稚園法二十遊嬉』などをもとに恩物教育を行っていた一般的な幼稚園と比べ、本格的な恩物教育が行われていたといえる。

### 3. 3 独自の保育科目「実物示教」の導入

管見によれば、1896年ごろの幼稚園で保育科目に「実物示教」を採用している園は見当たらない。当時、室町幼稚園が実物示教を保育科目として導入していたことは、独自の試みであったといえる。実物示教に関しては「保育用図書器械」の一覧に参考図書が記載されていないため、その内容については設置伺の「保育ノ要畧」の記述により考察していこう。ここでは実物示教の説明として「実物示教ハ児童ノ知り且ツ覚エ易キ実物ヲ見セ其名称形状性質効用等ヲ教ヘ之ヲ問答シ以テ観察注意ノ良習ヲ教エシム且ツ各児ニ種子ヲ蒔カシメ一部分ツ、受持タセ之ヲ培養セシムル事アリ」と記されている。

まず前半部分の「実物示教ハ児童ノ知り且ツ覚エ易キ実物ヲ見セ其名称形状性質効用等ヲ教ヘ之ヲ問答シテ観察注意ノ良習ヲ教エシム（下線筆者）」について検討してみよう。これは同園の保育科目の一つである「庶物ノ話」の中の「保育ノ要畧」の記述と類似している。庶物ノ話の説明には「庶物ノ話ハ専ラ日用普通ノ家具什器鳥獸草木等幼児ノ知り易キ物其標本絵図ヲ示シテ之ヲ問答シ其用法注意ノ良習ヲ養ヒ兼テ言語ヲ習ハシメンコトヲ要ス（下線筆者）」と示されている。両者の違いを検討すると、庶物ノ話は標本や絵図を示して、用法や言語を教えることを、実物示教は実物を見せ、その名称、形状、性質、効用などを観察させることを意図している。

そもそも庶物ノ話は小学校の実物教授への導入のために保育科目に組み込まれたが<sup>59</sup>、しだいに談話の一種とされて、言語を教えるようになった。表1によると、室町幼稚園においても庶物ノ話は談話として「修身ノ話」とセットで扱われている。室町幼稚園では、実物示教が本来の庶物ノ話として機能していたと推察され、観察を取り入れた直観教授がなされていたと考えられる。

次に実物示教の後半部分「各児ニ種子ヲ蒔カシメ一部分ツ、受持タセ之ヲ培養セシムル事アリ」を検討していこう。この部分は園芸に関する記述である。フレーベルは幼稚園に共用の庭と個人用の庭を備え、子供が自ら計画、栽培、収穫し、日常生活を支え飾るものの成り立ちを実感的に知る必要を唱えた。ここでは、各幼児に庭の一部を受け持たせて栽培活動をさせることが記されている。多くの幼稚園が庭を設置していなかった時代に、同園ではフレーベルの庭の思想を積極的に取り入れていたことが理解される。

以上より、室町幼稚園に独特な保育科目である実物示教は、一見庶物ノ話と類似した保育科目のようであるが、その実は、後のネイチャースタディーにつながる性質のものであったと推察される。

#### 4. おわりに

本稿では、吉田の保育思想とその実践の特質について以下の2点を明らかにした。

第一に、フレーベル主義幼稚園教育の理論に基づいた実践を展開したことである。多くの幼稚園では、恩物が形式的に使用され、手技としてまとめられていく中で、吉田は室町幼稚園において『キンダーガーデンガイド』に基づいた恩物中心保育を行っていた。そして、独自の保育科目である実物示教を導入し、観察

や園芸を重視した実践を指導していた。

第二に、幼稚園教育情報をアメリカから直接的に取得していたことである。彼女には英学の素養があり、翻訳されたものではなくアメリカの文献や宣教師から、直接的に幼稚園教育情報を得ることができた。室町幼稚園では『キンダーガーデンガイド』が恩物教育の参考図書として使用されていた。さらに、ミリケンやラブランドから最新のアメリカの幼稚園教育について教えを受けたとみられる。

このような保育実践が行われた背景には、以下の要因があったことが指摘できる。

まず、桜井女学校幼稚保育科において、吉田の保育者としての基盤が形成されていた点である。養成段階において吉田は保育方法のみならず、キリスト教思想に基づくフレーベルの保育理念を受容した。その上で、金沢女学校英学科へ入学し、ラブランドから教育学と音楽を学んだ。保育者として基盤の上に、さらに研鑽を重ねたことが、吉田の継続的な幼稚園教育活動を支えたといえるであろう。

今後は吉田の入手した幼稚園教育情報を特定し、その実践をさらに具体的に明らかにしたい。また、吉田は室町幼稚園での保育実践以降は保母養成にも関わっているが、その詳細について本研究では言及できなかった。宮城県保母養成所は公立の保母養成機関であり、吉田がキリスト教系の幼稚園以外にも影響を与えていたことは注目される。また、川村女学校でも保母養成や幼稚園の設立に携わっていると考えられるため、吉田の行なった保母養成がどのようなものであったかを解明していきたい。

#### 注

- 1 桜井女学校の保母養成課程の呼称には幼稚保育科、保母科、幼稚園保育法等が用いられるが、本研究では幼稚保育科に統一する。
- 2 『幼稚園教育百年史』（文部省、ひかりのくに、1979年、86頁）では「とりわけ幼稚園教員の養成に力を入れ、二か年課程あるいはそれ以上の組織的、専門的な保母養成を行い、明治期の我が国の幼稚園教育発展に多くの貢献をした」とある。『日本幼児保育史』（日本保育学会、フレーベル館、1974年、第2巻、95頁）では「保母養成に対する社会一般の無関心のなかにあつて、頌榮はじめキリスト教主義保母養成機関が幾多の迫害や経済的困窮をも乗り切つて、専門的な保母の養成に尽力したその功績はわが国の幼児保育史上に忘れることはできない」とある。
- 3 前掲『日本幼児保育史』第2巻、69頁。

- 4 日本基督教保育連盟編『日本基督教幼稚園史』基督教保育連盟, 1941年。
- 5 キリスト教保育連盟編『キリスト教保育に捧げた人々』キリスト教保育連盟, 正号, 1986年, 126-127頁。
- 6 前掲『日本基督教幼稚園史』97-100頁。
- 7 池上鋼他郎『北陸五十年史』北陸女学校, 1936年, 312頁, 307～309頁。
- 8 「私立幼稚園設置伺」私立学校明29-81, 2(京都府立総合資料館蔵)。
- 9 同上。
- 10 前掲『日本基督教幼稚園史』97頁。
- 11 同上。
- 12 英和幼稚園, 英和小学校の創設者である米国長老派教会から派遣された教育宣教師。なお, 「ポーター」とするのが原綴に即しているが, 先行研究で「ポートル」としているものが多いため, 本稿では「ポートル」を採用した。
- 13 前掲『日本基督教幼稚園史』97頁。
- 14 同上。
- 15 ツルーとポートルは共に米国長老派の教育宣教師であり, ツルーは1年間金沢に派遣されていたことよりポートルとの関係があった。そのため幼稚保育科とミリケン情報はポートルの耳にすぐに入っていたと考えられる。原綴に即せば「トゥルー」と表記すべきであるが, 先行研究で「ツルー」としているものが多いため, 本稿では「ツルー」を使用した。
- 16 前掲『北陸五十年史』312頁。
- 17 同上。
- 18 詳しくは田中優美「桜井女学校幼稚保育科の創設と保母養成の実際—卒業生の実践を手がかりに—」(『幼児教育史研究』第5号, 2010年, 33-44頁)を参照されたい。
- 19 前掲『日本基督教幼稚園史』97頁。
- 20 前掲「私立幼稚園設置伺」。
- 21 前掲『日本基督教幼稚園史』100-101頁。
- 22 同上書, 98頁。
- 23 同上。
- 24 同上書, 99頁。
- 25 前掲『日本基督教幼稚園史』99頁。
- 26 前掲, 田中論文。
- 27 倉橋惣三他『日本幼稚園史』臨川書店, 1983年, 135頁。
- 28 同上書, 152頁。
- 29 前掲「私立幼稚園設置伺」。
- 30 同上。
- 31 前掲『日本基督教幼稚園史』99頁。
- 32 同上。吉田の履歴書には1891年8月に辞職したと記されている。
- 33 同上書, 100頁。
- 34 同上。
- 35 前掲「私立幼稚園設置伺」。ただし, 吉田の書き間違いであると考えられるが, 履歴書には, 1892年1月から園長となると記されている。また, 神奈川幼稚園については「神奈川教会のキリスト教徒の協力で『神奈川幼稚園』(現在の神奈川教会附属神奈川幼稚園)を開設している。…(中略)…神奈川幼稚園で二宮を助けたのは, 金沢の英和幼稚園や西陣幼稚園でミス・ポートルを助けて実際の保育に当たった春日鉞(旧姓吉田)であった」(前掲『日本幼児保育史』第2巻, 68頁)とされていたが, 「私は初の一年餘しか御手伝ひ致しませんでした, 私の後任には橋本花さん, 次に二宮わかさんが責任を持たれました」(前掲『日本基督教幼稚園史』100頁)とあり, 吉田が二宮を助けたのではなく, 吉田の後を二宮が受け継いだということになる。
- 36 履歴書には, 1891年9月から1892年12月まで, 神奈川県横浜市私立住吉小学校にも奉職したとある。
- 37 前掲『日本基督教幼稚園史』100頁。
- 38 同上。
- 39 栄光幼稚園100周年記念事業実行委員会編『栄光幼稚園100年の軌跡』栄光幼稚園100周年記念事業実行委員会, 1999年, 6頁。
- 40 前掲「私立幼稚園設置伺」。
- 41 京都府私立幼稚園連盟『京私幼50年史』京都府私立幼稚園連盟, 1994年, 12頁。
- 42 前掲『日本基督教幼稚園史』23頁。
- 43 幼児の教育復刻刊行会『復刻幼児の教育』第4巻, 第5号, 1904年5月5日, 75頁。
- 44 同上書, 第9号, 1904年9月5日, 66頁。
- 45 川村女学院調。「職員名簿」(川村女学院蔵)。
- 46 前掲『京私幼50年史』12頁。
- 47 前掲『日本基督教幼稚園史』100頁。
- 48 前掲『日本幼児保育史』第2巻, 67頁。
- 49 前掲「私立幼稚園設置伺」。
- 50 同上。
- 51 同上。
- 52 同上。
- 53 東京女子師範学校附属幼稚園規則の変遷に関しては, 湯川嘉津美『日本幼稚園成立史の研究』(風間書房, 2005年), 第7章を参照した。
- 54 「公私立幼稚園保育課目取調表」女子高等師範学校, 1893年12月(国立国会図書館蔵)。
- 55 東京都立教育研究所編『東京教育史資料大系』第7巻, 東京都立教育研究所, 1973年, 397-399頁。
- 56 前掲『日本幼児保育史』第2巻, 20頁。
- 57 前掲『幼稚園教育百年史』68-69頁。

- 58 前掲『日本幼児保育史』第2巻, 52頁。
- 59 前掲, 湯川書, 156頁。
- 60 Maria Kraus Belte, John Kraus, *The Kindergarten Guide*, E. Steiger & Co., New York, First Volume, 1877. Second Volume, 1892.
- 61 『幼稚園法二十遊嬉』の原典については, 前掲の湯川書, 第6章第3節を参照した。
- 62 *The Kindergarten Guide* は, はじめはハンドブックの形で刊行され, 第1冊から第5冊までが13種類の遊具遊び, 第6冊から第10冊までが, 11種類の作業, 第11冊目がお話・音楽・ゲームである。実際に1877年までに3冊, 1883年までに13種類の遊具遊び全部の5冊が完成している。それらをまとめて, First VolumeのThe GiftsとSecond VolumeのThe Occupationsとして出版された(このことに関しては, 上智大学教授湯川嘉津美氏にご教示頂いた)。
- 63 前掲, 湯川書, 178頁。
- 64 関信三『幼稚園法二十遊嬉』青山堂, 1879年。
- 65 関信三「幼稚園創立法」『教育雑誌』第84号, 1878年。
- 66 番号は筆者がつけた。
- 67 *The Kindergarten Guide*, op. cit., p. 2.
- 68 Ibid. p2.
- 69 Ibid. p3.
- 70 Ibid. p3.